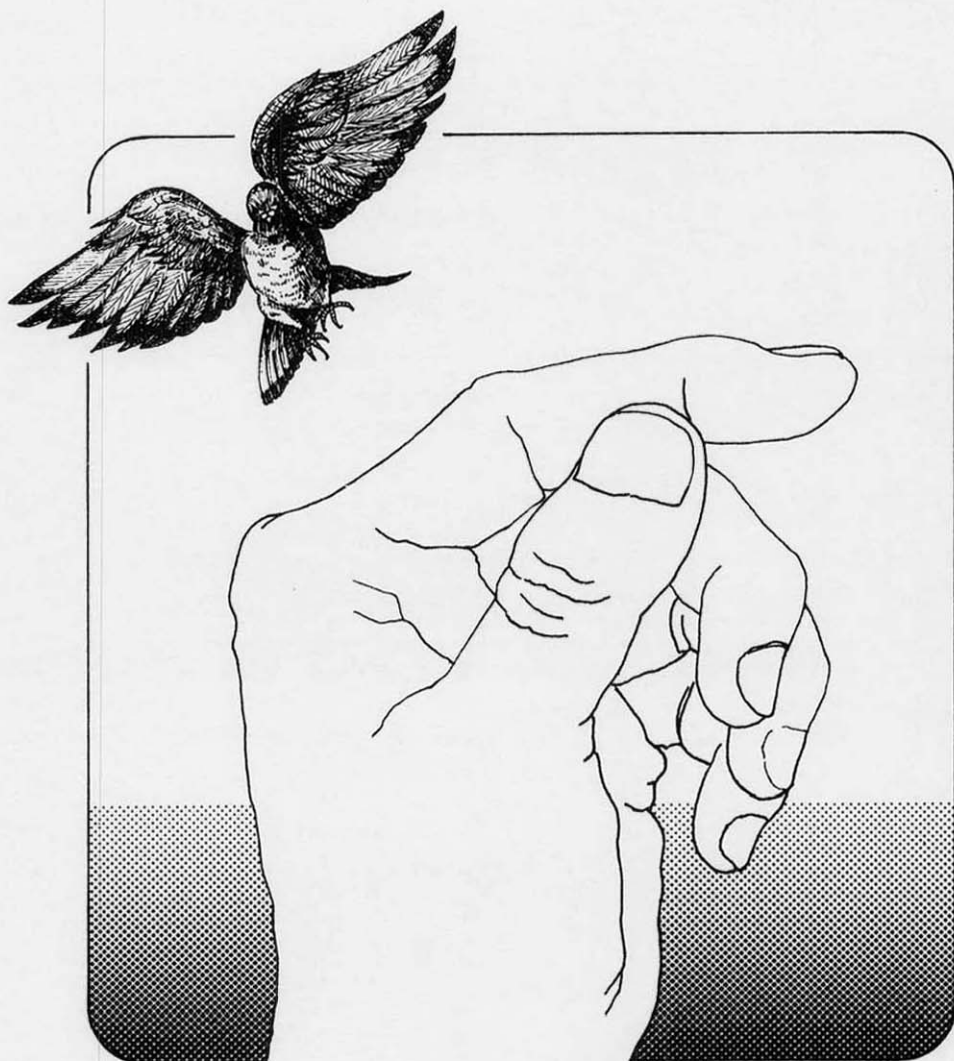


# 月報 岡崎の教育

58 年度 No.119～130



岡崎市教育委員会



4 月 号

昭和58年 4 月 1 日  
編集/発行  
岡崎市教育委員会

「強く明るくすなおな子  
共に考え進んで学ぶ子」  
われら百十三名の心は  
緑あくまでも深く  
水あくまでも清き  
ふるさとの青空に  
いま大きく広がろうとしている



(歓声が春を呼ぶ—生平小)



—教育随想—

診察室あれこれ

石川巖夫

戦前

「先生、西瓜を持って来ました。これは先生のために特別な肥料で育てたのですよ。」(とてつもない大きな西瓜だ。)

戦後

「先生、一番なりの西瓜です。どうぞ。」

現在

「先生、西瓜を差し上げます。」(何となく義理の感がある。)(診察室風景今昔)

最近の若い親には考えさせられてしまうことが多い。

若い団地の奥さんが、子どもを連れて来て言う。

「順子さんが熱を出しました。どうしたのですしょ。なぜですか、川崎病でしょうか。」

熱の出る病名を並べたて、自分の子どもに敬語をつけ、五歳にもなる子に必要以

上に手を貸している。

診察を待っている間も変わっている。こちらが丹精こめてやつと育てた花の蕾をその子どもは摘み取って池に投げ込んでいる。それを、母親は、編物をしながら眺めている。(こちらは、早く注意をしてくれないかとははらして見ている。)

逆に子どもが花のとげで指を刺せば、ほうほう言うのに。成人教育の必要性を痛感する。

もう一つのエピソード。フォーク歌手の高石ともやの話。

「昔のヒーロー達はやさしかった。白馬童子・鞍馬天狗・赤銅鈴之助。皆、他人への思いやりがあった。今はどうか。強きを助け、弱きをくじくタケチヤンマンがヒーローなのだ」と。

この現代気質と対照的な話が、相撲解説者玉の海の話である。双葉山の六十九

連勝をストップさせた力士である。その取り組みの前、彼は、奇襲戦法でやるか、正攻法でやるか、いろいろ考えた結果、やはり自分が日ごろ一心に稽古を重ねて鍛えた得意の四つの正攻法でやるべきだと決心して、偉業を成し遂げたという。

現代は生活環境も物の考え方も刻々と変動する時代である。急変する世の情勢に対処するには、よほど強靱な精神と肉体が必要となる。こういう時代においては、他人のことなどかまっていられないところから、現代のヒーロー、タケチヤンマンが登場するのであろう。しかし、こういう時代であるからこそ、他人のことを思いやる心の余裕を持つことが必要なのではなからうか。なぜなら、他人の痛みを感じ取ることが、自分自身を生かすことにつながるからである。

現在、青少年の非行が重大な関心事となっている。この問題については様々の検討がなされているが、非行増加に歯止めはかかっていない。非行の原因は、社会情勢の変化もあろうし、家庭のしつけの甘さもあるだろうが、一番大きなものは、本人の自覚のなさであると思う。病気を治療するのは医師でも薬でもなく、患者自身の体力と養生なのである。

世の親たちや教師たちは、子どもたちの心の力を強める指導を行わなければならない。複雑な時代を生き抜く術を教えるなければならない。他人への思いやりの大切さを説かねばならないのである。(医師)



酒への提言

岡崎読書会会長  
高橋 録太郎

酒は、天与の美禄。酒の飲める人は幸福である。晩酌を一日の生き甲斐と感じ、酒を一生の友として楽しみたいもの。

酒も程々に飲めば、百薬の長となり、コミュニケーションの潤滑油ともなるが、一つ間違うと、小原庄助さんのたとえのように、身上をつぶす結果ともなる。菜根譚では「花は半開に看、酒は微酔に飲む」と。貝原益軒は「少しく飲み、少しく酔えるは、酒の拙なく、酒中の趣を得て楽しみ多し」と。また、牧水は「酒は静かに飲むべかりけり」と教えている。

酒の十戒

- 一 酒を飲むとも吞まれるな。悔い残す。
- 二 朝から酒を飲むな。寿命を縮める。
- 三 酒は一日に二合まで。アル中になる。
- 四 酒で人に迷惑かけるな。謝罪せよ。
- 五 酒でくだを巻くな。きらわれる。
- 六 酒席でどんじりになるな。いやしさが出て見苦しい。
- 七 盃をさされたらことわるな。相手の心を喜んで受けよ。



ふるさとシリーズ  
— この人に聞く —

# 盆栽日本一

鈴木俊則氏

盆栽ひとすじに、三十年以上も修業を続け、全国的に活躍している人が岡崎市におられる。その人、鈴木俊則さんを自宅に訪ねた。

立派なコンクリート塀に囲まれた邸内に入ると、三百平方メートル余はある庭園に、松を中心とした盆栽の数々が整然と並んでいる。その奥に、展示用の部屋と台風のとときの盆栽の避難用に造られた特別の地下室がある。展示室に、全国の盆栽作家と芸の粋を競い、見事、日本盆栽作風展で内閣総理大臣賞に輝いた日本一のかりんや松があり、目をみはる。鈴木さんは、父親の佐市さんから二代

続いたの盆栽業。終戦間もなく後を継いで助んできた。

本業の盆栽作り、皇居の盆栽の手入れ、日本盆栽協同組合専務理事として作品展の企画や講演活動と、多忙である。

また、全国の愛好家から預けられた傷ついたり、弱ったりした盆栽の治療も手がけている。いわば盆栽の病院長としての活躍である。その木が今どんなことをしてもらいたいのかを診断し、病害虫を駆除し、根を切り土をかえて、樹勢を回復したり、整枝したりする。また、接ぎ木をし、樹勢、樹格などを整える。

診断するだけでも難しい。俗に「水かけ三年」といわれる。その木が水を要求しているかどうかわかるようになるまでに、三年はかかるという。

「若い頃、盆栽界でいつか日本一になってやろうと根性をもってやってきた。それは辛い厳しい男の人生であった。そのことが、今、目のあたりにしている樹の数々を生み、おかげで日本一になったと思う。人生は意地と情熱ではないか。」

「盆栽は、山野の縮図を一つの器に入れて大木の相をいかに表現するかの芸術だ。口ではいえないが、盆栽をみれば何をしてほしいかすぐわかる。」

「人間はうそをいうが、盆栽はうそをいわない。正直でいい。手をかければかけるほどよくなる。木のそれぞれの性格を知り、愛情をもって育てること。」

盆栽を通して人生談義が次々と続く。

「教育と盆栽づくりについて（教育のことは素人で何もわからないがと前置きされつつも）熱っぽく話される。

「人間は盆栽と似ているところがある。悪い枝をばっさり切りつめるように、あまやかしては無く厳しく叱りつける愛情が必要ではないか。」

「病める盆栽をなんとしても治療をして返すという信念でやっているが、教育でも病める者、まちがった者を、なんとしてもなおしてやる気迫が必要だと思ふ。」

人生、そして教育のあり方に、大きな示唆を与えていただいた。

住所 岡崎市大平町杉本  
生年月日 大・14・4・3  
職業 盆栽師



八 酒席を軽蔑するな。人生勉強だ。  
九 翌朝酒の話をするな。気分をこわす。  
十二日酔いで弱音を吐くな。猛省せよ。

## この葉がよい

前竜海中学校長  
渡辺尚三

私と酒との係りはどうであったか。  
祖母は九十歳余まで長生きをしたが、最後に寝付いたとき、医者に老衰だから特別に薬はないと言われたので、薬びんに酒を入れてまくらもとへ置いたところ、「この薬が良い」といつてにっこりした顔が忘れられない。

祖父も父も晩酌は欠かしたことがなく末期の水は酒であった。しかし、泥酔をした父の姿を見たことは、あまりない。酔いがまわると長唄の「弁慶」が出てくるので「ああ、大分きいてきたな」と思うぐらいであった。

小さい時から生活の中に酒があったので、成長するに従って、自然に酒との係りができ、四十年余が経過してしまつた。私自身の酒はよくわからないが、気心の知れた友と話しながら酌み交わす酒が一番うまいと思う。そんな気持ちを唐の酒仙李白が「山中対酌」にうたっている。

兩人対酌山花開  
一盃一盃復一盃  
我醉欲眠君且去  
明朝有意抱琴來



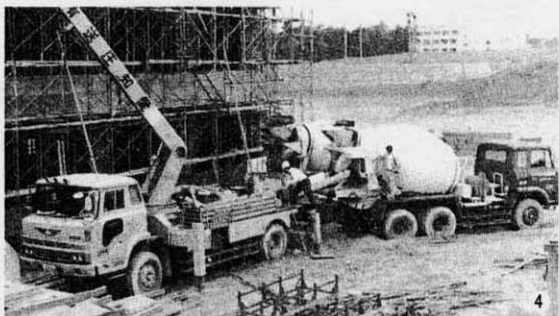
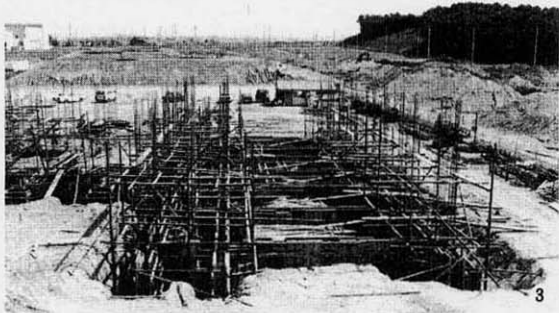


# 上地小学校誕生

岡崎小から贈られたデジジ、福岡小から贈られたバンジ。友情の花にかこまれて、岡崎市三十九番目の小学校、上地小学校が開校した。丘陵を切り開いた高台に、白亜の校舎ができあがった。校地は、二四、九〇一平方メートルという広大さ。

まず、上地小のシンボルゾーン。これは、昇降口の階段を利用した屋外ステージ。向かい側の観覧席。真ん中にケヤキを植えた丸いサンクガーデンの三つから作られている。音楽集会などの会場として、「心づくり」のために有意義に活用される。

廊下は、窓が高く明るい。また、廊下の外側には霧よけひさしもついている。一階の一年生の教室からは、花壇の設けられた広いテラスを通り、低学年用の運動場へと出られる。



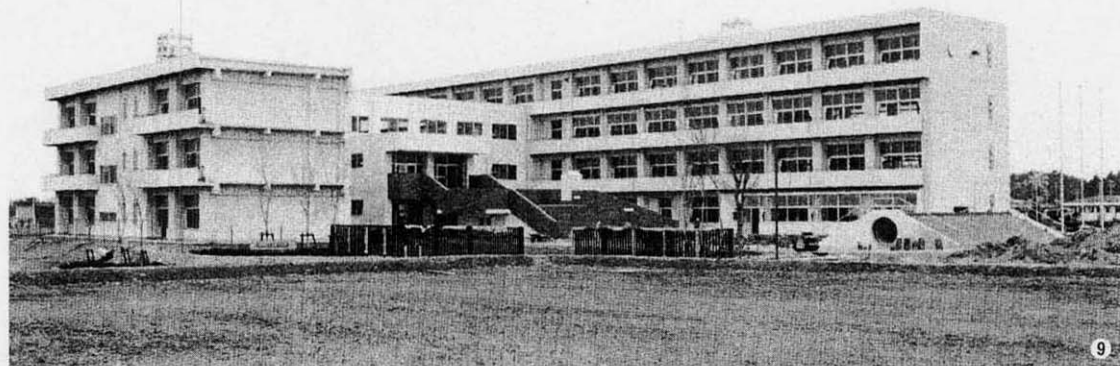
特別教室もすばらしい。音楽室は、二教室ある。イヤホンでも聞ける電気オルガンが入っている。また、音楽準備室もそれぞれに用意されている。理科室も二教室、理科準備室も二部屋ある。視聴覚室にも準備室が付き、リモコン装置付きの映写機が置かれている。図書室にも書庫が付き、天井までの書架が作り付け。

新しいアイディアは、ほかにも数多い。文字通り二十世紀を目ざすにふさわしい、アイディアづくめの上地小学校である。もちろん用意周到の開校準備があつてこそその誕生である。温かい心に包まれて出発した上地っ子よ、がんばれ。

「教育はこころ」、「人づくりは心づくり」を信念に、五百八十二人の児童と二十三人の職員と学区の人々が一九となり、上地小学校がスタートした。



- ① 宅地に囲まれた上地小の校地。住宅が建ち並ぶのも、そう遠い日ではなからう。
- ② 広い敷地に、太いコンクリートパイプが力強く打ち込まれる。
- ③ 鉄の林。校舎の基礎が固まる。
- ④ 一階二階三階と、校舎の原型が現れる。
- ⑤ 三月二十六日、新一年生の学校見学。行き帰りには通学路を確認。用意周到な計画により、開校式への準備が進む。
- ⑥ 福岡小より贈られた「友情の松」。岡崎小からは「イヌノキ」が贈られる。
- ⑦ 緊張の一日。上地っ子よはばたけと、レリーフのハトがみんなを励ます。
- ⑧ 観覧席より見たシンボルゾーン。
- ⑨ 岡崎市南部を眺望する丘陵の中腹にそそり立つ白亜の校舎。



# 教育日々



## オタケビ

香山中 三浦 裕昌

「三浦くん、一体何事が起きたんだ。」

私が教室で生徒を叱ったあと職員室では必ずこんなことを言われる。ある時は卒業生に、「先生、何かわからんけど、よくどなるね。」

とも言われた。私の声はそれほど大きいらしい。ある先生が私の声を「オタケビ」と評した。

私は今、二年生担任。彼らが入学してきた一昨年の春などは、私のオタケビの度が過ぎて、「三浦くん、彼ら大丈夫かい。」と、先輩の先生方によく言われた。

大丈夫、何とかなりますよとは答えても、内心は不安でいっぱい。オタケビの回数は増す一方だった。

彼らは中学生になって、気持ちが開放されたせいもあるが、自習などになると、机の上で踊り出したり、プロレスまで始める始末。そんなエネルギーを彼らに對抗するにはこちらも倍以上のエネルギーをぶつけていくしかないと思っていたのだ。

ところが、彼らを見直す事件があった。クラスから男子の転校生を出すことになった。親から内密にしておいてほしいという願いもあって、転校の日までクラスには内証にしておいたが転校する日の第四時、やむなくそのことを告げた。

「先生、一年生誰も給食を取りに来ないよ。」

給食のおばさんに知らされて、また何か、と飛んでいった教室

で、私は意外な光景に出合った。全員が泣きじゃくっているのがある。男子の暴れん坊も顔中涙でくしゃくしゃにして。

この時から私の彼らを見る目が変わったのかも知れない。あんなに手を焼いていた子たちだったが、彼らとの接触が増すにつれ、すばらしいものを見せられることがふえていった。こうして、クラスも一つにまとまっていた。

あれからも二年、学校の中心で活躍している彼らを見ると、あの暴れん坊たちがと、しみじみ感じる。「オタケビ」の数もずいぶん減ったなあと思う。

彼らに昔の話をするとみんな明るく笑い飛ばす。そんな顔を見て、すばらしい宝物を大切に育ててやりたいと改めて思うのである。

## いい汗かこう

井田小 村上 芳己

「元氣いっぱいあいがんばろう。」

運動しよう。」  
天を突くような子供たちの発声で、昼の清掃後の二十分間運動が始まる。  
一年二組は、きぼうの森で、か

えるの玉とり」だ。この遊び、九月に行つて以来子供たちの人気を集めている。とのさまがえる、がまがえる、ひきがえるの三グループに分かれて、それぞれ他のグループの陣にある松ぼっくりを取りに行き、時間内に自分の陣の松ぼっくりが多く残っているグループが勝ちとなる。

「それっ、かかれノ！」  
私も、名前につられてとのさまグループに入った。いったん遊びが始まると必死だ。ふと、我を忘れて松ぼっくり争奪に懸命の自分に気づく。汗がにじんできた。かなりの運動量がある。

しかも、子供たちの意見で「取りにいく途中でタッチされたら、かえるとびで自分の陣に帰る」などというルールができた時は、内心ギクツとした。

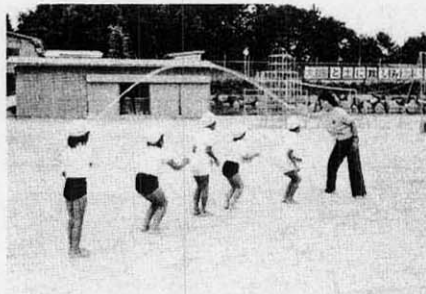
「ねえ、先生だけタイム作つてよ。」

「すらいじゃん。」  
「しょうがないなあ。ほんなら先生、かえるの格好しとるだ。」  
それでも、運動に汗を流した後の爽快さは忘れられない。元気になる子供たちを見ていると、何といい顔をしているんだろうと勇気づけられる。

たけし君、はだしだ。みほ子さん、入学してからずっと半袖で通して。がんばれ。  
子供は遊びながら動くこちよっぱい遊びながら動くこちよっぱいを知る。みんなといっしょに遊ぶ中で、自然に社会性を身につけていく。力の強い子は弱い子をいたわり、一人とか二人で遊んでいる子がいたら仲間に入れていく。みんなで決めたルールは、みんなが守る。まさに、体力づくりは人づくりである。

はだしになつて三年。私の足の裏の皮も、ずいぶん鍛えられたものだなあ。  
花の女教師、喜ぶべきか、憂うべきか……。でも、子供たちと共に汗する喜びを体と心で感じる毎日である。

たけし君、はだしだ。みほ子さん、入学してからずっと半袖で通して。がんばれ。  
子供は遊びながら動くこちよっぱい遊びながら動くこちよっぱいを知る。みんなといっしょに遊ぶ中で、自然に社会性を身につけていく。力の強い子は弱い子をいたわり、一人とか二人で遊んでいる子がいたら仲間に入れていく。みんなで決めたルールは、みんなが守る。まさに、体力づくりは人づくりである。







### 昭和五十八年度 学校教育の視点

## 心のかよう教育を

教育の成果は教師の姿勢にかかわるところが大きい。常に進みつつある者のみか人が教える資格を有する。

教師に不断の研鑽が求められる所以である。

学ぶ教師よつてのみ、学ぶ子どもが育つことに思いをいたし、たゆみない研修によつて自らの力量と見識を高める努力が肝要である。

岡崎の教師は、今日の教育の実情を厳肅に受けとめ、師弟の間に尊敬と愛情の固い絆で結ばれた、真の信頼関係を確立しなければならぬ。

校長のリーダーシップのもと、全校一致の指導体制をとり、一層教育者としての使命感に燃え、

- 【寄贈刊行物・資料等】
- ◆ 社会科授業実践記録社会科部 B5 一二五ページ
- ◆ 文集おかげさ第20集 国語部 A5 一九二ページ
- ◆ 自主性を高める生徒指導の在り方 矢作地区小中学校合同研究会

- B5 四五ページ
- ◆ 県外研修実施報告書 第11集 B5 研修に関する委員会
- ◆ 校務のしおり 第6集 校務主任会 B5 五二ページ
- ◆ 岩津の史跡と文化財 岩津小同窓会 A5 三一〇ページ

- ◆ 岡崎少年自然の生物観察の手びき 理科部生物サークル B5 二四ページ
- ◆ 本との対話 第七号 美川中 新書判 八七ページ
- ◆ 自作ビデオ教材「活用事例と製作の歩み」 視聴覚ライブ ラリー・社会科部 B4

- 子・安藤直哉▽東海中▽岩附広行・小林俊元・鈴木真弓・竹内弥生▽常磐中▽山口雅代・坪井恵里子・星野育子▽香山中▽鈴木弓子▽岩津中▽田中明美・花井建好・中垣明道・稲前晶子▽矢作中▽土井誠司・松本香・永野光雄・山田泉美▽六ツ美中▽浜井美由紀・草次真人・加藤智子・小田恵美子▽矢作北中▽原田雅文・中根貴美

父母・社会の期待に応えたい。

### 指導重点

- 1、教師と子ども、子ども同士のかよう学級づくりに努める。
- 2、できる喜び、わかる楽しさを味わう授業の創造に努める。
- 3、基本的生活習慣を身につけ、自らを律する児童・生徒の育成に努める。

### ■松下視聴覚教育研究助成校に岡崎から四校

第九回松下視聴覚教育助成校に次の四校が選ばれ、来る五月七日に東京で贈呈式が行われる。

〈小学校〉  
広幡小学校、細川小学校

美川中学校、常磐中学校

### ■期待の新任教員九八名

〔小学校〕 五八名

- ▼梅園小 金沢里美 ▼根石小 田中久子・小西博・鈴木章文
- ▼男川小 太田雅子 ▼美合小 清川久美子・浅沼雅広 ▼緑丘小 杉浦美加・岡田千里 ▼羽根小 加藤直樹・菘田吉則 ▼六名小 堀智恵子 ▼三島小 水島好乃 ▼竜美丘小 大西まり子・加納隆 ▼連尺小 空野登志子 ▼広幡小 渡辺良美・金子ゆかり ▼井田小 水嶋直子・中根信政・榊原ちとせ ▼福岡小 浅井英之・本田健 ▼山中小 嶋崎充・太田智子 ▼本宿小 伊藤京子 ▼生平小 鶴田享子 ▼秦梨小 藤原栄司 ▼常磐南小 香村和子 ▼常磐東小 武田薫 ▼常磐小

- 武藤洋子・三井朋子・時岡澄江 ▼細川小 片岡みどり・松井航子・清水真奈美 ▼岩津小 白井京子 ▼大樹寺小 天白真樹子・中村あい ▼大門小 樋口文字・岩附なおみ ▼矢作東小 矢田雅敏・田島広嗣・橋本直司・名倉嘉章 ▼矢作西小 市川陽明 ▼矢作南小 上田真路 ▼六ツ美中 部 杉浦菊代・本間茂夫 ▼六ツ美北部 横野清美・安西政幸・香村公英 ▼六ツ美南部 川隅義孝 ▼城南小 鈴木彰・杉浦公子・岡田浩 ▼上地小 青山静夫・本多八穂

- 〔中学校〕 四〇名
- ▼甲山中 都筑祐一・岩村典子・中村公治 ▼美川中 神谷秀光・浜口範彦・渋谷昌彦 ▼南中 大城龍夫・鈴木之 ▼竜海中 杉浦康之・石田絹枝・千種英夫・西郷裕司 ▼葵中 鈴木孝司 ▼城北中 横山繁美・荻野款司・石川幸子 ▼福岡中 成瀬久美

### ■新任教師の集い

今年度岡崎市の教師となる人たちが九十四名が参加し、三月二十七日から三日間、少年自然の家で研修会が開催された。主な内容は次のようであった。

- 〔第一日〕三月二十七日
- ▽講話〈横井滋教育長〉▽講座〈浅井千代子校長・山浦昭雄教諭〉実技研修〈ひらがな・数字の書き方〉懇談会〈先輩と語る〉
- 〔第二日〕三月二十八日
- ▽講座〈畔柳吉朗教諭〉▽実技研修〈板書の書き方〉▽体験発表▽講話〈鈴村正弘前教育長〉▽実技研修〈集団行動訓練〉▽実技研修〈オリエンテーリング〉▽実技研修〈孔版のしかた〉
- 〔第三日〕三月二十九日
- ▽映画〈岡崎の教育〉▽講話岸田達夫校長・栗田昭夫校長



# 蔵地出し乳



所在地一岡崎市上青野町

上青野町来迎院の本堂の南側に、北向きの地蔵堂がある。木造瓦ぶきの建物で、昭和五年に改築されたものである。

この地蔵堂の厨子の中に、身の丈五十センチほどの立像の地蔵尊が祀られている。作者、製作年代とも不明だが、昔から、「来迎院の乳出し地蔵」として世間に知られている。

江戸時代、天保年間のこと。中伝馬に乳の出の悪い某女がいた。赤ん坊はやせ細り、見るに忍びない姿になっていく。そんなおり、知人から「乳出し地蔵」のことを聞き、お参りをしたと

ころ、靈験あらたかに、お乳がたくさん出て、赤ん坊は丸々と太ってきたという。

このうわさが広がり、女の人が出産後、お乳がたくさん出るようになつてお参りするようになったことである。

当院を参拝する信者は、洗米をこの地蔵尊に供えたあと、それを持ち帰り、かゆにして食べることを習わしとした。かゆを食べるときには、必ず精進物とし、魚肉等は避けたという。

この風習も今ではなくなり、地蔵尊へのお参りも、戦後は少なくなってきた。

- 題 字 岡崎市長 中根 鎮夫
- タイトルバック 六ツ美中 深見 祥明
- カ ッ ト 甲山中 太田 正文

## この本を

- 灰谷健次郎と話す 灰谷健次郎 980円  
理論社
- 源氏物語の花 松田 修 1,600円  
国際情報社
- 菜の花の沖(1-2) 司馬遼太郎 各1,200円  
文芸春秋
- 私の嫁いびり 西川勢津子 980円  
主婦の友社
- 現代の詩人 谷川俊太郎 大岡 信編 1,500円  
中央公論社
- 贈ることば PHP研究所編 880円  
PHP研究所
- 若き教師たちへ 宮田 光雄 200円  
岩波ブックレット
- 日本の教師にうったえる むのたけじ 1,300円  
明治図書
- 親である条件 中川 志郎 750円  
主婦の友社
- 独学のすすめ 加藤 秀俊 950円  
文芸春秋

親のすました顔、あどけない入学児の素顔、記念の写真撮影のひとこまである。澄んだ瞳、清らかなこの子らに接すると、心が洗われるような気がする。健やかな心身の成長を願うとき、まず、何をしようかと考える。一人ひとりの名前を覚え、呼び掛け、語り掛けようと、児童名簿を手にする。



明るく元気な挨拶とともに、職員室に入つて来られるO先生。わたしも晴れ晴れとした気持ちになって声を返す。このすがすがしさに、生きていく感を強くする。

挨拶する心に、年代の差はないはず。照れないで、仲間にも子どもにも明るく声を掛けていきたいものだ。

睡眠・春眠・睡眠。なんとなく眠くなる季節である。

新学期のスタート。新しい子どもたちとの出会い。

二年間続けて同じクラスを担任し、その良さを初めて知った。しかし、続けて二年間担任できるとは限らない。一年間しか担任しないことを考えると、不安になる。一年間で子どもたちの良さを知り、その良さを引き出せるようがんばろう。

緊張を欠いているのか、季節がそうさせるのか。医学的なもので、ホルモンへの刺激の多少によるという説もある。

ともあれ、新年度のスタート。はつらつとした、張り切った顔で、子どもと接したいものである。